



October 2019

PALCIP最終セミナーに会場沸く！

約3年間にわたったプロジェクト活動の完了を前に、2019年9月25日に関係省庁、ドナー、NGO、大学関係者、西岸地区の難民キャンプ代表者等を招き、PALCIP活動の紹介、経験共有、広報を目的とした最終セミナーをラマラにて開催しました。

難民キャンプ改善に関心を持つ多くの方（186名）が参加しました。イスラム開銀、EU代表事務所、デンマーク代表事務所、ヨルダン代表事務所、韓国（KOICA）などのドナー関係者や、イタリアやスイスのNGO団体からの参加に加え、パレスチナ自治政府省庁、難民キャンプ、大学や民間企業等、バラエティに富む出席者となりました。

最終セミナーはプロジェクト概要説明（プロジェクト紹介ビデオの上映とDoRAによるプレゼン）と2本のパネルディスカッションにより構成されました。パネルディスカッションでは実際にプロジェクト活動に参加した難民問題局(DoRA)職員、住民委員会(PC)代表、キャンプ改善フォーラム(CIF)メンバー、パイロット事業参加者に加え、オブザーバーとして常に主要会議に参加してきたUNRWA職員がパネリストとして登壇し、プロジェクトの成果、プロジェクトを通じて感じたことをそれぞれの立場・観点から聴衆に伝えていました。

質疑応答では、「DoRAがやろうとしている活動について理解できた」、「PALCIPモデルをほかの難民キャンプにも展開してほしい」、「3キャンプで作成したキャンプ改善計画(CIP)の実現のために各ドナーは協調すべきだ」、「ノンインフラ事業はインフラ事業より地味だけど、プロジェクトがもたらす効果が大いことを知ることができた」、「ノンインフラ事業の成果はもっと広報したほうがいい」等、ポジティブなコメントが続きました。

最終セミナーでは、PALCIP活動を通じて作成した「計画策定マニュアル」と「事業実施管理マニュアル」も参加者に配布されました。「計画策定マニュアル」には、3キャンプにおける参加型計画策定プロセスを通して得た経験がまとめられています。

一方、「事業実施管理マニュアル」では、キャンプ改善プロジェクトの形成～実施段階における各ステップがまとめられており、資金調達についても紹介されています。DoRAおよび関係各所は、今後難民キャンプにて計画策定、プロジェクトを実施する際に、これらのマニュアルをもとに進めていくことが期待されています。



左：計画策定マニュアル、

右：事業実施管理マニュアル

3年弱におよぶ現地での活動はこれにて終了しますが、DoRAからは、「PALCIPの活動を通じてキャンプ改善のための新しいアプローチを学ぶことができた」、「キャンプのことをより知ることができた」、「他のキャンプにも同様の手法を是非展開していきたい」というコメントが多く出てきました。彼らのさらなる活躍とPALCIPモデルの他難民キャンプへの普及展開に乞うご期待です！